

可能性広がった木材

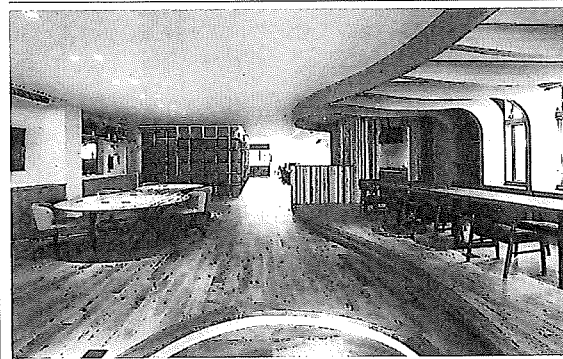
曲線や立体感を伝える

榊忠銘木店

改修は現在、提案を強化している県産材の自社ブランド「木想(KISOU)」など自社製品のほか、化粧貼り・ムク材・造作用集成材といった同社で製造するあらゆる分野の木材をバランスよく用いた。塗装までを自社工場で行うことでワンストップ製造を推進している。従業員の作業機、収納棚も木質に変更する一方、一部で金属を使い異素材の組み

合わせも取り入れた。打ち合わせのオープンスペースは木製机の配置を自由に変えられるため談話や試作品作りなど多用途に使用できる。また、曲線を取り入れ形状にこだわったテーブルや、立体感があり様々な樹種を組み合わせたルーバーは空間の彩りにもなる。NC加工の依頼は特注製品が大半を占めるため、サンプル品を提示しにくいことが悩みだ

つたが、榊田社長は「自社オフィスの家具などに取り入れることで、顧客にNCルーターでできる加工を具体的に伝えやすくなる」と話す。木想は県産杉・桧大径木の活用を主眼に、自社工場が無地、上小節、1等の3等級に分けた造作用集成材を製造し、各種加工・塗装を施した商品だ。デザイン性を付加価値にすることで、製材だけで



NC加工の表現力を追求した事務所

を高める。塗装スチール、空間を木製品で実現する。塗装スチール、空間を木製品で実現する。塗装スチール、空間を木製品で実現する。

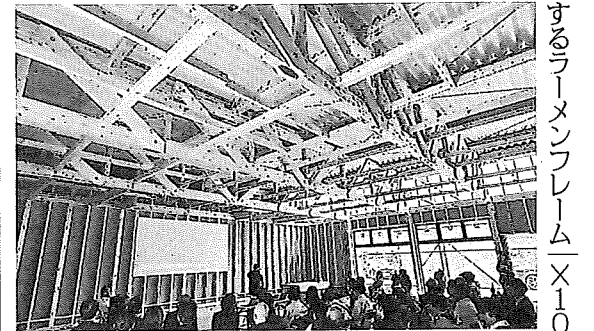
建設技術審査証明取得をアピール 東京で木製浮き基礎工法展示

越井木材工業 12日まで開かれたGODDE SIGN Marunouchi 企画展「TOKYO WOOD TOWN2040」として用いる工法で、1月にベタリピングの建設技術審査証明を取得している。

一般的に基礎には鉄筋コンクリートを用いるが、丸太に置き換えることで材料製造時のCO₂放出量を削減で



建設中の建物は、パイクの販売を手掛けるデスモ（広島市、谷口充洋社長）の新店舗。構造設計はウッド・ハブ（新潟県三条市、實成康治代表）、設計・施工は永本建設、納材・プレカットはスガノ（広島市、三原聖史社長）が担当した。当初は軽量鉄骨で建



3棟からなる店舗のうち、パイクを展示販売するA棟は延べ床面積396.80平方メートル、パイク用品などを販売するB棟は同264.53

万博使用木材の再利用構想提案 木材団体として維新の会を訪問

大阪府木材連合会（津田潮会長）は9日、大阪維新の会（吉村洋文代表）の本部を



再利用を想定した施設設計も提案（写真手前は三宅専務理事）

は、三宅英隆専務理事など同連合会会員に加え、増田昇（津田潮社長）のサーモ技術を活用した施工事例などを紹介しながら、木材製品の再利用を提

その内容を踏まえたうえで、同連合会は会員の越井木材工業（越井潤社長）のサーモ技術を活用した施工事例などを紹介しながら、木材製品の再利用を提

するラーメンフレーム×105ミリ、斜材はSPFの2×10材（38×235ミリ）などを使用

「コストはかからないので実践してほしい」と木造を勧めた。一般流通材に加え、接合金物もMPねじ接合システム（BXカネシン）やテックワンプ3プラス（タツミ）を使う

訪れ、2025年大阪府立大学名誉教授らも出席し、大阪維新の会政務調査会のメン

ヒートアイランド現象の軽減が図れることなどを説明。また、木造建築物を通じた日本文化の発信や、コミュニティ・エンパワメントの視点から木質化による歩道のコミュニティ空間化の必要性を訴えた。